



農 業公社きびの里から委託を受けた障がい者の就労移行支援事業所「わくわくハンド・ベル」は8月9日、学校給食に納入する野菜の栽培作業を始めた。

初日のこの日は通所者5人が、地頭片山地区の畑でキュウリの苗を植え付けました。公社では学校給食用に、キュウリやキャベツ、

ダイコンなどを栽培。今後は、これらの植え付けをはじめ、水やり、除草、収穫などの作業を行います。今回のキュウリは、9月下旬から11月初旬までの間に、学校給食に納入予定です。この取り組みは、農業分野での障がい者の就労を進める第一歩であり、将来的に、通所者の仕事につながればと考えています。

また、学校給食で市内産の野菜を食べられる子どもたち、仕事をもてた障がいがある人、学校給食の市内産の食材使用率を17%から35%に引き上げる取り組みをしている「地・食べ」委員会など、多くの人が喜びを生みます。

市が重要施策として進めている障がい者千人雇用と地産地消の「地・食べ」の2つの取り組みを前進させ、「学校給食」をキーワードに、みんなが喜べる取り組みとして成長することが期待されます。

問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎082269)



農業公社きびの里の職員(写真右端)の指導を受けながら、キュウリの植え付けをする「わくわくハンド・ベル」の通所者(写真中央)。約3畝の畑に120本のキュウリの苗を植えた



市障がい者千人雇用委員会の「基本理念」「支援制度研究」「就労創出」の3つの部会は、7月、8月に部会を開催。同委員会の提言づくりや今年度行う実働的な取り組み、障がい者の雇用に関する国の助成・支援制度、就労の場のリストアップなど、それぞれ担当する分野の調査・研究を進めた

「学校給食」がキーワードに、みんなが喜ぶ障がい者雇用と「地・食べ」が歩を進める

地産地消を進める「地・食べ」と、障がいがある人の雇用を進める障がい者千人雇用。農業公社きびの里がしている野菜の栽培の一部で、この2つの市の施策の目的を兼ね備えた取り組みが始まりました。「学校給食」のために野菜を作ることが、地産地消であり、農作業をする障がい者にとっては仕事になります。

※ 「地・食べ」とは、市内で農産物を作り、みんなが食べようの意味を込めた、総社の地産地消の取り組みの愛称です。